

# 学びのアップデート

本通信では、都立学校と区市町村教育委員会向けに、ICT環境整備と利活用の充実、GIGAスクール構想の円滑な導入支援を図るために、オンラインを活用した教育活動や児童・生徒一人一台端末の活用についての実践事例を定期的に配信していきます。

## 1 TOKYO スマート・スクール・プロジェクト

東京都教育委員会では、Society5.0に向けて「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」を推進し、学び方・教え方・働き方を改革していきます（資料1）。児童・生徒一人一台端末、高速通信網、大容量クラウド等のICT環境が実現すると、学び方については、個別最適化された学びや子供同士の主体的・対話的な学びなどが促進されます。教え方については、学習ログを活用したエビデンスベースの指導を行ったり、ビッグデータの活用・分析により授業改善を図ったりする指導ができるようになります。働き方については、校務の効率化が図られることにより、子供たちと向き合う時間が確保され、よりきめ細かく指導することができるようになります。このように、ICT環境整備と利活用の充実を図り、子供たちの学ぶ意欲に応え、子供たちの力を最大限に伸ばしていきます。

### 資料1

#### TOKYOスマート・スクール・プロジェクト (学び方・教え方・働き方の三大改革)

個別最適化された学びの実現  
普通教室無線LAN100%整備 (2022年)

- 子供たちの学ぶ意欲に応え、子供たちの力を最大限に伸ばすためのトータルツールとして、教育のICT化を強力に推進
  - ・ 都立学校における一人一台のモバイル端末の整備 (BYOD\*等含む) や学校の高速度通信環境 (Wi-Fi) を整備  
\*BYOD (Bring Your Own Device) ……生徒が所有しているスマートフォンなどの端末を学習に活用する利用形態
  - ・ 一人ひとりの理解度や進度に応じて個別最適化された学びや子供同士の主体的・対話的な学びなどを実現し、「知識習得型」から「価値創造・課題解決型」の学びへと大きく転換
  - ・ 島しょ地区高校の地理的制約や、通信制高校における時間的制約等を超えた質の高い教育を実現
  - ・ 学習ログを活用したエビデンスベースの指導に加え、校務の効率化により教員が子供たちと向き合う時間を確保
- 都立学校において、5G、AR/VR、IoT等の先端技術について企業と連携した実証研究を実施し、その結果を踏まえ、先端技術の活用に関する新たな指導方法を確立・展開


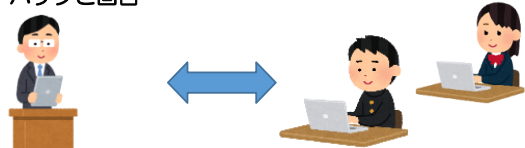
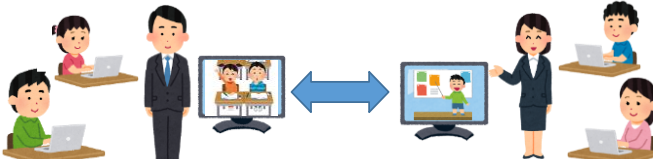

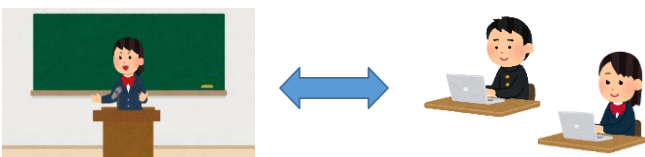
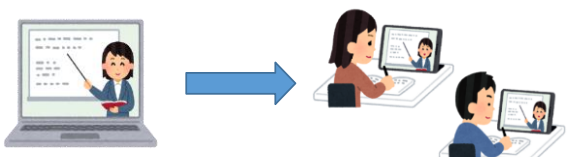




## 2 WITH コロナ、ポストコロナにおけるオンラインを活用した学び

東京都の各自治体では、感染予防対策を行い、分散登校や時差登校等段階的に学校を再開し、現在夏休みを迎えています。夏休み明けも緊急対応に備え、オンラインを活用した教育活動の事前の準備と体制づくりが重要です。**資料2**は、「今後のオンラインを活用した教育活動の例について」です。各校でICT利活用推進における取組の参考にしてください。

### 資料2

### 今後のオンラインを活用した教育活動の例について

<p>1 外部講師による授業</p> 	<p>5 課題（webテスト、プリント他）の配信と回収、感想や質問等のフィードバックと回答</p> 
<p>2 他校との合同授業</p> 	<p>6 オンラインによる児童・生徒との連絡、相談</p> 
<p>3 オンラインによる学習発表会</p> 	<p>7 長期休業中や放課後の講習・補習での動画配信（オンデマンド）</p> 
<p>4 オンラインによる保護者会や学校説明会</p> 	<p>8 自宅で動画を視聴し学校で意見交換をする授業</p> 
<p>1～4は児童・生徒一人一台体制でなくてもできること</p>	<p>5～8は児童・生徒一人一台常時接続体制でできること</p>

※一人一台常時接続体制では、授業の中で5ができるようになることが大切です。なぜなら、授業が教師から児童・生徒への一方向型から双方向型になるとともに、配信するものや配信のタイミングを変えるだけで、様々な学習活動に取り入れることができるからです。

## 3 実践事例通信『学びのアップデート』

新学習指導要領に示されている資質・能力を育むには、指導方法、学習方法、学習環境等を更新し、最新のものにする必要があります。また、Society5.0に向けて、ICT機器及び環境というハード面と、それらをどう利用していくか、授業そのものをどのように構成するかというソフト面の両方のアップデートが求められています。

そこで、これからの「学び」を最新のものに「アップデート」していただくことを願い、本通信のタイトルを『学びのアップデート』としました。

東京都教育委員会のホームページにも後日掲載する予定です。